
岐阜県立可児高等学校

学 校 長 水口 猛
学 校 住 所 岐阜県可児市坂戸987の2 電話 0574-62-1000

- 1 会議の名称 岐阜県立可児高等学校 学校評議員会（第2回）
- 2 会議の構成
- | | | |
|-------|-------|------------|
| 委 員 | 大野 裕司 | 元美濃加茂西中学校長 |
| | 桂川 直人 | 岐阜県農業大学校長 |
| | 松井 慶子 | 元本校PTA役員 |
| | 松尾 和樹 | NPO 縁塾代表 |
| | 吉田 亘宏 | 坂戸地区自治会長 |
| 学 校 側 | 水口 猛 | 校長 |
| | 川地 晃正 | 教頭 |
| | 岩田 肇 | 事務長 |
| | 金本 淳 | 教務主任 |
| | 小栗 和成 | 生徒指導主事 |
| | 田内 俊文 | 進路指導主事 |
- 3 会議の目的 学校運営について、保護者や地域住民から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 令和3年2月 書面による開催

5 会議の概要

(1) 情報化推進の取組みについて

○情報化推進で期待する、進学校としての可児高校での学びの姿について

- 意 見 1 ・タブレット導入の効果を高めるためには、成果の共有が必要である。
- 意 見 2 ・現在および未来社会を生きる人間を育てるには、ICT教育は要であるが、デジタルの負の面も考え合わせると、校内推進体制に示される「連絡・相談」「連携」を重視し、「個」に「分断」されない学習集団づくりも一層求められると感じている。
- 意 見 3 ・情報化が進む中、タブレットを使用しての学習は大いに進めるべきと考える。

(2) 進路指導部の取組みについて

○本校が目指すキャリア教育について

- 意 見 1 ・県進学指導重点校事業の成果を生かしながら、さらに情意面ではコアな部分（何のために生きるのか、何を指して学ぶのかなど）を地域共創フラッグシップハイスクールやエンリッチ事業などを生かして一層育ててほしい。
- 意 見 2 ・進路設計が多岐にわたり、それに対応すべくいろいろな見通しなどの手立てがなされていると評価する。

(3) 生徒指導部の取組みについて

○本校の交通安全指導について

- 意見 1 ・自転車通学の生徒を毎朝見かけるが、よくマナーを守れていると感じる。
- 意見 2 ・生徒数に比べ事故件数が少ないと感じる。交通安全標語に感じられる生徒の意識として、自覚に基づくセルフコントロールが働いていると感じる。

(4) エンリッチ活動について

○本校の地域課題、国際交流と連携した学習について

- 意見 1 ・魅力的な活動である。ふるさとを大切に思い、知り、発信する、発信したことでさらにふるさとへの思いが募っていく、という好循環が生まれている。
- 意見 2 ・ローカルなテーマとして地域防災、グローバルなテーマとしてSDGsに着目されたのはとてもよい。

(5) 学校アンケート結果について

- 意見 1 ・現状数値でも、保護者、生徒の満足度は相当高いと評価できるが、2割程度の否定的な要因について、個人面談等を通じて想いを拾い上げてほしい。
- 意見 2 ・昨年度とは違う側面を加味したり削除したりして、評価内容をアップデートしていることが確認できた。
- 意見 3 ・不安や思春期のイライラにも寄り添い、理解していくことのくり返しが、生徒の自己肯定感と保護者からの信頼につながるのではないかと思う。

6 会議のまとめ

ICT教育は、積極的・先進的に進めるべきとの提言をいただいた。個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けて、情報化推進の方策を探っていききたい。

エンリッチ活動は、コロナウイルス感染症の影響で大きな制約を受けたが、オンラインを駆使して新たな海外交流の形ができたことに評価を頂いた。グローバルクラスメイトや、ニューヨークで開かれるサミットへの参加、異文化ワークショップ・グローバル交流体験等で世界に視野を向け、グローバルな視点から可児市の地域課題を捉える力をつける事業へと成長させていききたい。